
平成 31 年

1 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

新たなブランドづくり

中濃農林■加工用さつまいも 第3回さつまいもプロジェクト会議

中濃地域では、本年度から1.2haで新たに加工用さつまいもを栽培し、新産地づくりに取り組み始めた。農業普及課では実証ほを設置して、品種の比較や暦の検討、コスト計算を行ってきた。

第3回さつまいもプロジェクト会議では、調査結果をもとに作成した栽培暦、出荷規格表について関係機関で検討を行い、今後の方針を決定した。

来年度は栽培者の増加および作付面積の拡大が見込まれており、JAめぐみのと協力しながら新規栽培者の支援を行い、岐阜県の新たなさつまいも産地を目指す。



【実証ほで収穫したさつまいも】

東濃農林■多治見市三郷活性協議会 女性部による新たな特産品づくり

多治見市三郷活性協議会では、農産物のブランド化や地域資源の活用を通して地域の活性化に取り組んでいる。現在、当協議会では、女性部が中心となって新たな特産品として、天然酵母を使ったパンづくりを進めており、定期的に技術習得のための研修会が開催されている。

1月25日に行われた研修会には、女性部3名が参加し、地元で生産されたいちご由来の酵母を用いてパンを作る技術を学んだ。将来的には地元産の野菜や果物を使った商品を、年間を通して販売することを目標に、活動を継続している。また、加工所の再整備も並行して進められており、地元の期待感も高まっている。

農業普及課では、今後の組織化や仲間づくりを支援していく。



【いちごの酵母とパン】

下呂農林■エゴマ 念願の搾油所が開設～オープニングセレモニーを開催～

東京オリパラを見据え、下呂市では飛騨小坂あぶらえ生産組合を中心に、あぶらえ（エゴマ）の栽培拡大と加工品の開発に取り組んでいる。

今回、外部に委託してきた焙煎・搾油を生産組合で行えるよう搾油機・焙煎機等一式を市などの補助を受け導入し、これまで稼働テストや食品（食用油脂製造業）の営業許可の取得など稼働に向けての準備を進めてきた。

1月29日には、関係者を招き搾油所の開所式が行われ、下呂市長などの来賓をはじめ、組合員20名が出席し、テープカットや搾油機等の披露が行われ、多数のマスメディアが取材に訪れた。

農業普及課では、搾油所の運営について助言を行っていくとともに、東京オリパラに加え地元での消費拡大も推進し、地域住民の健康増進にも繋げていく。



【組合長及び来賓代表によるテープカット】

多様な担い手づくり

岐阜農林■島園芸振興会 家族経営協定調印式開催

1月18日、JAぎふ島支店において、島地区を中心に、主にえだまめ、ほうれんそう、だいこんなどを栽培している6世帯の家族経営協定調印式が行われた。

岐阜農林事務所長、JAぎふ代表理事組合長、岐阜市農林部長、岐阜市農業委員会長、岐阜市農地利用最適化推進委員が立会人となり、協定書に調印をした。本協定をきっかけに、それぞれの家族は各自の役割や働き方を明確にし、経営計画や生活設計の樹立を目指していく。

農業普及課では、今後も関係機関と連携し、家族経営協定の推進を図ると共に、各世帯の農業経営改善や産地の発展につながるよう支援していく。



【調印式の様子】

西濃農林■なし 後継者・担い手育成～第5回「梨塾（最終回）」を開催～

1月21日、大垣市曾根町において大垣市ナシ生産連絡協議会の主催により、梨生産者の後継候補者7人を対象として梨塾が開催された。今回は第5回目、今年度の最終回となる。講義では、平成31年産に向けた土づくりと肥培管理、GAPの推進、経営に関する分析と目標設定及び簿記記帳について学習した。講義後、塾の効果測定と次年度への反映のためアンケートの記入後、修了式が開催され、修了証の授与と関係機関から激励の言葉が贈られた。アンケートの結果では、梨塾の内容は概ね好評で、関係機関は次年度の梨塾の開催と後継者育成に手応えを感じている。次年度は、ステップアップした内容で梨塾を継続開催する予定である。

農業普及課は、梨塾全般について指導力を発揮し、室内講義及び現地実習での指導と情報提供並びに関係機関との連絡調整を行い、梨塾の円滑な活動を支援した。



【修了式：全員集合でパチリ】

郡上農林■女性農業経営アドバイザー 第4回農業女子会を開催！！

郡上市では市内女性農業者を対象に、『第4回農業女子会』を1月22日に開催し、30名が参加した。この会は地域全体の女性農業者のネットワークづくりと資質向上を目的に開催しており、今回は『6次産業化』をテーマとした研修会を開催した。

当日は、岐阜県6次産業化サポートセンターの協力を得て、6次産業化チャレンジ研修に位置づけ2部構成で開催した。

第1部は一般社団法人 日本フードラボ&トレーニング協会代表理事 太地由美氏を講師に招き、6次産業化に取り組む際の重要事項について、実践に基づく幅広い知識から講演を頂いた。また、参加者が作った6次化商品を会場に展示紹介し、講師から商品の評価及び改善点の指摘を頂いた。

第2部は厨房機器メーカーから講師を招き、スイーツ等の加工実習を行った。スチームコンベクションオープンなどの厨房機器を用いた食品加工について実演・試食がなされ、参加者は効率的で美味しい仕上がりに興味深い様子であった。

農業普及課は郡上市と連携を深め、今後も農業経営アドバイザーへの活動支援を継続するとともに、市内女性農業者の活躍を応援していく。



【地域や品目を越え交流】

可茂農林■いちご新規就農者 定期的な生育診断を継続

可茂地域では今年度3名が新しくいちご栽培に取り組んでいる。そのうちの1名では10月中旬以降の生育が思わしくなかったことから、農業普及課では週に1回の頻度で植物体栄養診断と養液成分の調査を行い、測定数値に基づいた栽培管理方法について提案しながら支援をしてきている。

12月中旬には、いちごの株はまだ小ぶりながら栄養診断の目標値に達し、回復の様子が伺えるようになった。今後も収穫・出荷は続くので、草勢を維持しながら多収を目指して支援していく。



【草勢回復したいちご】

飛騨農林■青年農業士 青年農業士連絡協議会飛騨支部が夜間勉強会を開催

1月29日（火）に青年農業士連絡協議会飛騨支部では、会員の技術力向上を目的に夜間勉強会を開催した。

今回の勉強会では「飛騨地域の地力（可給態窒素）を加味した適正施肥にむけて」というテーマで農業技術センターから講師を招いて開催し、4Hクラブ員・新規就農者・長期研修生などにも参加を呼び掛け、22名の参加があった。出席者は、自分の経営に勉強会の内容を生かすために、熱心に質問を行っていた。

農業普及課では今後も青年農業士連絡協議会飛騨支部の活動が自主的に行われるよう継続して支援していく。



【勉強会の様子】

売れるブランドづくり

揖斐農林■GAPの推進 農薬の適正な取扱い講習会を開催

美濃いび茶生産者、GAP取組み中の農業者を対象に、「農薬の安全な使用・管理のための実地講習会」を、いび川農業協同組合と(有)サポートいびの協力のもと、池田町茶業振興センターにおいて1月14日に開催した。GAPに取り組む農業者が増えたこともあり、約40名の参加者があった。

農薬の適正な使用・管理については、これまでも指導機関が開催する各種の講習会において啓発を行ってきたが、GAPに取り組む農業者が増えたこともあり、農薬の安全な使用・管理の徹底について改めて確認を図った。当日は、現場での農薬散布液の調整、農薬散布、散布後の洗浄工程等の実演、農薬保管庫での農薬管理等について現場で説明した。参加者は熱心に聞き入り、質問も多く出され、安全な農薬の取扱いについて関心の高さがうかがえた。

このような講習会を定期的に開催して欲しいという意見もあり、農業普及課では関係機関と連携して、今後も講習会を開催していく。



【講習会の様子】

革新支援センター■自給飼料 **自給飼料生産の高度化**

1月10日に飛騨酪農農業協同組合にて、酪農家及び種苗メーカーと自給飼料生産に係る検討会を開催した。自給飼料利用拡大と農地利用の効率化により、自給飼料生産の高度化を図ることが目的である。

専門員は酪農家に対して、自給飼料の分析値に基づく飼料設計や乳用牛への給与方法の指導を実施している。そのなかで、酪農家からはトウモロコシ、ソルガムなどの長大作物の新品種の特徴や牧草の混播の組み合わせについて情報提供が要望された。

そこで、種苗メーカーを招き、酪農家への新品種の情報提供と栽培体系の検討会を実施した。その結果、ソルガムないしトウモロコシを栽培し、その後、赤かぶを栽培し、続いてイタリアンライグラスとライムギを混播する体系を設定し、現地実証することとした。

農業経営課高山駐在の農業革新支援専門員は自給飼料の栽培・調製方法の指導を引き続き行い、自給飼料生産の高度化を支援していく。



【自給飼料生産の検討会】

住みよい農村づくり

恵那農林■農産物直売所等 **「恵那地域農産物直売所等研修会」の開催！**

農業普及課では、地産地消の取り組みを一層推進するため、1月28日に恵那総合庁舎において、恵那地域農産物直売ネットの会員等を対象とした研修会を開催した。当日は、管内の農産物直売所や学校給食へ出荷している生産者、関係機関等91名が出席した。

研修会では、荻巣農林事務所長が、農産物輸入自由化で自給率が下がる状況下で、今後起こりうる世界的な食料不足の対応策として、直売所向け農産物生産のような家族農業の重要性が増しているとあいさつした。

講演では、岐阜県6次産業化プランナーの横山順子氏が、「売れる農作物は買い手が欲しい農作物」と題し、具体的な事例を2つ紹介しながら、買い手が欲しがる農産物を用意できているかが直売所成功のポイントであることを説明された。農産加工に関する質問に対しては、余ったものは加工すれば売れるという安易な考えは捨て、真剣に取り組まなければ成功はないとの回答があった。

講演に次いで、恵那保健所から法改正された栄養成分表示方法について、農業普及課から農薬の適正使用について説明し、直売所関係者への意識啓発を行った。農業普及課では、安心・安全な地産地消の推進に向け、今後も農産物直売所等に対する支援を継続する。



【研修会の様子】